

# Research Office Newsletter



## Dialogue

言語教育センター  
特任講師

大原 哲史



言語教育センター  
特任講師

石村 文恵

APUで日本語教育を担当している特任講師の大原哲史です。今回は、同じくAPUで日本語教育を担当している石村文恵特任講師と共同執筆した学術論文についてお話ししたいと思います。私達の論文は『Studies in Self-Access Learning (SiSAL)』誌に掲載されたもので、タイトルは「[Emergency Remote Support at the Self-Access Learning Center: Successes and Limitations](#)」です。この論文では、コロナ禍でAPUのSelf-Access Learning Center (SALC) がどのように学生の言語学習をサポートしたかについて考察しています。論文は右のQRコードからご覧ください(\*英語のみ)。この記事を通してSALCと言語教育についてお伝えでき、今後より一層APUの言語教育に興味を持っていただけたら幸いです。



**石村:** 大原先生は2016年からSALCの日本語コーディネーターをしていて、SALCミッションの制定などにも関わってきましたね。

**大原:** はい。SALCは、学生が自ら想い描く目標に向かって、生涯学習者として成長し続ける自律した言語学習者かつ自信に満ちた言語ユーザーとなるための支援をしています。そして、そのためには、学生が「言語能力」「学習者オートノミー」「異文化間能力」を養うことが大切だと考え、多様なサポートをしています。

**石村:** そうですね。具体的には、まず、SALCでは「ピア・アドバイザー (PA)」と呼ばれる学生アドバイザーから個別にサポートセッションが受けられ、これは学生にとっても人気があります。また、英語学習に関しては「ラーニング・アドバイザー (LA)」の英語教員とのサポートセッションもあります。

**大原:** はい。そして、個別のサポートセッション以外でも、PAは様々なアカデミックなイベントと文化的なイベントの企画と運営をしています。

**石村:** SALCは言語科目の授業のサポートという側面だけでなく、カジュアルな会話を通して新しい友達を作ったり、様々な言語でのコミュニケーション能力を伸ばしたりする「ソーシャル・ラーニング」をサポートするという側面もありますね。

**大原:** 石村先生がおっしゃる通りで、そのためにここ数年は学生が自由に他の学生やPAと会話やゲームを楽しめる「ソーシャル・ラーニング・スペース (SLスペース)」を構築してきました。授業の合間にSALCに立ち寄って友達と話したり、待ち合わせにSALCを使ったりと多くの学生がSALCの「SLスペース」を利用しています。このような様々な機会を通してSALCは学生の「学び」をサポートしていますよね。



石村：はい。しかし2020年の春学期からコロナの影響で大学のSALCの施設が使えなくなり、SALCのサポートシステムも検討しなくてはいけなくなりました。SALCの英語コーディネーターとアカデミック・オフィスの方々と話し合い、オンラインでできるサポートをするということになりましたよね。

大原：そうですね。それを私達が「Emergency Remote Support (ERS)」と名付けて、その成功点とリミテーションを考察したのが今回の研究ですね。

石村：はい。ERSとは、コロナ禍のような緊急事態でもSALCで実施しているサポートを学生に提供するために、一時的にSALCのサポートをオンラインに変更して実施するシステムのことです。PAとLAとの個別サポートセッションやイベントは対面の代わりにZoomを使い実施しました。特にオンラインでの個別サポートセッションは、対面の時と同じように学生の言語学習をサポートすることができただけでなく、学生がコロナ禍で人とあまり会うことができない状況から感じる不安やストレスを解消するのにも役に立ったということがわかりましたね。

大原：アカデミック・オフィスの方々は準備などで大変だったと思いますが、コロナ禍でもSALCのサポートをキャンセルせずにERSを実施してよかったと思います。ただ、この研究ではERSにはリミテーションがあることもわかりましたよね。特に先ほど述べたSALCでの「ソーシャル・ラーニング」のサポートに関しては難しい状況でしたね。

石村：はい。ERSを始めた2020年春学期には、学生が授業の合間にSALCを訪れて他の学生やPAとカジュアルに会話をしたり、友達を作ったりするためのオンラインでの「SLスペース」は構築できませんでした。研究データとしてSALCのオンライン・サポートと学生の様子に関してPAへアンケートとインタビューを実施しましたが、SALCの雰囲気が好きで、そこで友達と会うことができない状況が寂しいと感じている学生とPAがいることがわかりましたね。

大原：学生やPAが「SLスペース」としてのSALCが好きで、これまでのSALCにそういう側面を構築することができていたことがわかったのはよかったです。しかし、コロナ禍の現状では、オンラインでも「SLスペース」をどのように構築できるかを考える必要があることがこの研究でわかりましたね。

石村：そうですね。それでこの研究結果を踏まえて、2020年秋学期にオンライン上でも「SLスペース」を作れないか英語コーディネーターやアカデミック・オフィスの方々と話し合って試みたのが、「SALCオンライン・ラウンジ」でしたね。

大原：はい。イベントのように予約する必要はなく、オープンで気軽に学生が集まれる場をZoomで設け、楽しくコミュニケーションを図ったり、つながりができたりすればと始めましたよね。英語と日本語のPAが協力して進めてくれました。頻繁に参加していた学生もいましたが、参加学生数が少ない時もあり、オンラインで「SLスペース」を作る難しさを感じましたね。

石村：やはり実際のSALCの環境とは異なるのかもしれませんがね。SALCを通りかかったら友達がいたから寄ってみたなど、これまで当たり前だと思っていたことが難しくなりましたからね。でもこれまでの当たり前ではなく、これからできることをまたみんなで考えていきたいですね。

大原：はい。対面からオンラインに「手段」だけを変えるのではなく、状況を考えながら創造的で面白いことができればいいですね。そして、SALCを通して学生が言語学習と言語使用を多元的に考えられるきっかけを作れたらいいと思います。

石村：そうですね。言語学習というと授業で文法や語彙などの言語知識を身に付けるイメージを持っている人が多いかもしれませんが、実際のコミュニケーションでそれをどのように自分の「ことば」として使用していくのか、自分の考えや価値観と様々な人との関係をどのように構築していくのか、どのような学び方を学ぶのかなど様々な要素が複雑に関係しています。SALCも一つの出会いの場であると思いますが、友達やクラスメイト、先生や職員の方、地域の方など、様々な人を介して学んでいくことが多くあります。



大原：はい。言語の授業、専門の授業、SALC、サークル、アルバイト、遊びなどでの様々な実践と経験をつながりながら、学生が主体的、そして能動的に自分の「学び」を構築していくというのが大学で必要なことだと思います。

石村：そうですね。学生には可能性を見切りをつけずにどんどんチャレンジしてほしいですね。

大原：はい。私たちもチャレンジし続けましょう。

石村：はい、そうしましょう！



# Special Feature: Journal Articles about APU

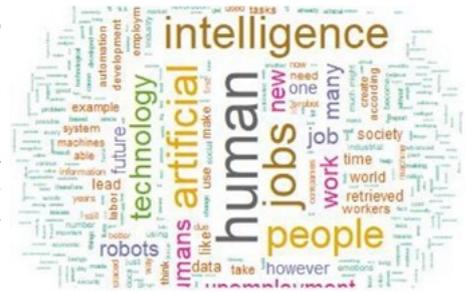
大原特任講師、石村特任講師によるSALCに関する研究紹介に引き続き、APUの国際的な多文化環境を活かして行われている研究を紹介します。教員が執筆した研究論文は、それぞれの右のQRコードからアクセスいただけます（\*英語のみ）。

## [“Attitude of college students towards ethical issues of artificial intelligence in an international university in Japan”](#)

[MANTELLO Peter A.](#) 教授、[GHOTBI Nader](#) 教授



この研究では、APUに在籍する大学生228名（日本人63名、外国人165名）を対象に人工知能（AI）に対する態度や道徳観を調査しました。学生たちは、世界経済フォーラムが提案した9つの倫理的課題の中から、将来のAIに関連して最も重要な倫理的課題を1つ選び、選んだ課題が最も重要であるとする理由を説明するよう求められました。この論文はその結果を考察し執筆したもので、政策立案者は、AIが雇用に与える影響に対する対策を検討することが重要であり、AIエンジニアは研究開発においてもAIの感情的側面を考慮する必要があると結論づけています。



## [“When National Narratives Clash in Multinational University Classrooms: A Pedagogical Perspective”](#)

[HEO Seunghoon Emilia](#) 准教授



Nguyen Huu Phu Gia さん・Vo Ha Chi さんによる作品「The other in us」

「私たちに栄光をもたらしたものは、彼らに痛みをもたらしました。私たちが忘れてしまったものは今でも彼らの心に強く響いています。」APUの教室には30か国以上の国から来た学生がおり、日本人の隣には中国人が、パキスタン人の隣にはインド人が座っています。自国と対立する国の“物語”に触れたとき、他者とどうコミュニケーションを取ればいいのか、その答えを知っている学生は多くはありません。この論文では、学生たちがこれまで得てきた相反する知識についてどのように“語る”のか、大学の教室で彼らの“物語”が衝突したとき何が起こるのか、そして彼らが平和や和解の担い手になるためにはどのような教育手法が導入されるべきなのかを探っています。

## [“Impact of the Interactive e-Learning Instructions on Effectiveness of a Programming Course”](#)

[DAHLAN Nariman](#) 准教授



COVID-19の大流行により、学校および大学、学習開発の専門家は、対面式の学習機会提供からオンラインでの学習機会提供への急速な移行を迫られています。パンデミックの進行により、効果的なeラーニングコンテンツの提供がより重要かつ不可欠になっていることはいうまでもありません。この論文は、APUで開講されているプログラミングの授業において、学習効果を高めるために利用したインタラクティブな指示を含むeラーニングコンテンツの影響を評価することを目的としています。またこの論文では、評価シートの作成、データ収集、分析方法についても述べています。

## “Incorporating an External Online Test Into a University Language Program”

[PATTISON Steven C.](#) 准教授、[衛藤 智子](#) 特任講師、[JONES Kent](#) 特任講師、[LARKING Malcolm](#) 特任講師、[JOHNSTON Patrick J](#) 嘱託講師、[PHILLIPS Michael](#) 嘱託講師



この論文では、APUの英語プログラムへのオンライン・テストの導入について考察しています。4つの異なる尺度から、テストと補助教材の有効性を評価した後、波及効果、学習者主体、自己効力感の観点から、評価結果の検証を行っています。検証の結果、これらは有用であることがわかりましたが、今後は、さらなる体系的な研究が必要であると結論づけています。

## “Classroom-Based Training Towards Learner Autonomy”

[衛藤 智子](#) 特任講師、[糸井 貴夕](#) 嘱託講師、[サンダーズ 美里](#) 非常勤講師



多くの研究者が、言語学習ストラテジー（LLS）の使用と自律学習能力の向上の関連について論じています。しかし、現在の英語教育ではLLSに関する学習者養成（LT）に注意が向けられていないため、学習者の多くは、授業内でLLSについての理解を深める機会を十分に得られていないのが現状です。この研究では、授業内LTを考案し、APUの英語コースのカリキュラムに組み込みました。今回考案したLTでは教員による支援の下、参加者が対象LLSの学習と訓練を行うことが期待されています。この論文では、一連のLTの実施内容とその根拠を提示し、調査結果の分析をしています。また、これら分析結果に基づき、今後の授業内LTの実施についての提言を行っています。

## News

### 令和3年度 科学研究費助成事業（科研費） 12件採択

#### 科研費 KAKENHI

本学教員による研究課題12件が、日本学術振興会 科学研究費助成事業（科研費）に採択されました。科研費とは、人文学、社会科学から自然科学までの全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（大学等の研究者の自由な発想に基づく研究）を対象とした唯一の「競争的資金」です。（文部科学省研究振興局

独立行政法人日本学術振興会 科研費ハンドブックより抜粋）

今年度は、基盤研究（A）1件、基盤研究（B）1件、基盤研究（C）5件、若手研究5件の採択となりました。採択率は48.0%となっています（4月現在）。研究分野は観光、環境、教育、歴史、経営などさまざまです。採択課題の詳細は、[APU公式ホームページ](#)からご覧いただけます。



APU公式ホームページ  
科研費採択課題

### APカンファレンス2021発表者募集

アジア太平洋カンファレンス2021「多様性とインクルージョン」が2021年12月4日～5日に開催されます。発表を希望される方は[こちら](#)からお申し込みください。申し込み締め切りは2021年6月30日です。詳細は、[APカンファレンス公式ホームページ](#)からご確認いただけます。



テーマ：多様性とインクルージョン  
日程：2021年12月4日（土）～5日（日）  
場所：立命館アジア太平洋大学（APU）およびオンライン  
（\*オンラインのみでの開催になる場合もあります。）  
基調講演：政策研究大学院大学（GRIPS）教授 大野 泉 氏



APカンファレンス  
公式ホームページ